

# 「急いで降りてきなさい」

ルカ 19:1～10

梅谷先生がはじめて教会へ行ったのは、高校3年生の時でした。先生は、当時、学生運動をしていました。最後まで一緒にやろうと言っていたその仲間たちが、大学受験のため次々と運動をやめていき、最後は先生が一人残されました。仲間たちは皆、第一志望の大学へ合格。運動に力を注いでいた先生は不合格、という結果でした。そして先生は、「仲間裏切られた」、「第一志望の大学に行けなかった」という、絶望的な思いの中にありました。そんなとき、犬の散歩で公園に行ったら、そこで牧師と出会い、教会へ行くきっかけとなりました。でもその思いは、「自分は議論が好きだから、教会へ行ってみんなを困らせてやろう。壊してやろう。」というものでした。教会へ行って議論で勝って、「よっしゃー！」という気持ちで教会を出るとき、いつもみんなが玄関で、「また来てくださいね。」と言ってくれ、牧師は「今日イエスさまを信じますか？」と尋ねる。先生は、「信じません！」と断言し、「もう二度と行かない！」と決心するのですが、なぜか金曜日になるとまた教会へ行きたくなり、日曜日は教会へ行き、議論で勝つ。帰るとき、「また来てくださいね。」と言われる。これが3ヶ月続きました。いつものように議論に勝つため教会へ行ったある日、「今日イエスさまを信じますか。」と尋ねられ、「信じません！」と言ったとき、「信じない理由があるか？」という声を心で聞きました。そして、今まで言っていた「信じない。」ということが、みんなの言う「罪」ではないか？イエス・キリストがいるとするなら、自分はいちばんひどい、失礼なことを言っていたと悟りました。すると、今まで仲間を持っていた憎しみ、恨みが、自分の中からスーッと出て行き、喜びが湧き出してなぜだか大泣きをしました。先生の人生は「信じます！」というひとことで、いつも喜んでいられる人生に変えられました。喜ぶ人のところには、人が集まってきます。聖書は、「喜ぶ」ためには変化しないもの(＝イエス・キリスト)との関係をいつも持つこと、と言っています。私たちは祝福されたのです。ですから次は、他の人を祝福するときが来ました。他の人に仕え、他の人が喜ぶのを見て喜ぶ。これが私たちクリスチャンであり、私たちが持ち続けることができる喜びです。ルカ 19:1～10 で、取税人ザアカイが、イエスさまを信じて変えられていったことがわかります。

## ■ ①彼は3つのことを求めて生きた

- ① よい職業に就くこと
- ② 地位を持つこと
- ③ 金を得ること

ザアカイが求めたよい職業は、十分な収入が得られるものでした。取税人という仕事は、確実に収入を得ることができるものでした。しかし、この仕事は、不正なやり方で人々からお金を取り上げるものなので、お金の儲けはできても、ザアカイは人々から嫌われていました。でも、ザアカイは、例え嫌われても十分なお金を得ることを願っていました。そして、たいへんなお金持ちになったザアカイは、地位を持つことを求めました。ザアカイは人を雇い、そのかしらとなり、自分の願ひ通りになります。このように、願っていたことひとつひとつを得ていったザアカイですが、あるときエリコの町に「イエスが来た！」といううわさを耳にします。そしてなぜかイエスに興味を持ち、見に行

くのです。

## ■ ②金持ちのしないことをした

- ① 出かけた
- ② 走った
- ③ 木に登った

ザアカイは自分が求めていたものをすべて手に入れたのですから、それに満足していれば、「出かけて、走って、木に登る」必要などなかったはずですが、でもザアカイには、何かわからない心の渇きがあり、イエスに好奇心を持ち、なぜか餓え渇きから走り、木に登ったのです。どうしてザアカイは、「よい職業、地位、金持ち」に執着したのでしょうか？それは、彼が「背が低かった」ということです。このことは、ザアカイの劣等感だったので、この3つを得ることで人々を見返してやろうと思ったのでしょうか。劣等感というものは、恥じなくてもよいことを恥じる、ゆがんだ心です。ザアカイは金持ちになり立派になりましたが、彼のそばには誰も寄ってきませんでした。ザアカイはさみしかったのです。誰かに来てほしかったのです。そんなとき「エリコにイエスが来た」といううわさを聞き、「罪人を受け入れてくれるイエスってどんな人だろう」と興味を持ち、「自分も変わりたい」と思い、あふれる期待感からザアカイは金持ちのしないことをしたのです。

## ■ ③ザアカイを変えた3つの言葉

- ① 「ザアカイ」と名前を呼んだ
- ② 「急いで降りてきなさい」
- ③ 「あなたの家に泊まることにしてある」

木に登っているザアカイに、イエスさまは「ザアカイ。」とその名を呼ばれました。ザアカイはイエスさまのことを知りませんでした。イエスさまはザアカイのことを知っておられたのです。このようにイエスさまは、私たちの罪までも全てを知っても、それでもなお私たちを愛してくださるお方です。イエスさまはザアカイの全てを受け入れてくださり、そして「急いで降りてきなさい。」と言われました。イエス・キリストは、「私」と目線を合わせてくださるお方です。「私」を探して救うために、神であるお方が人となって来てくださったのです。イエスさまは、「見下す」から「信頼」という関係を願っておられるのです。私たちは木の上から降りて、ありのままの自分を認めなければいけません。イエスさまに、「あなたの家に泊まることにしてある。」と言われたザアカイは、「どうぞ。」とイエス・キリストを自分の主として迎え入れました。このときザアカイは、今までの集めるばかりだった生活から、周りの人々を祝福し感謝するものに変えられました。「急いで降りて」「喜んで」「祝福するもの」になったのです。イエス・キリストは、言われました。「今日、救いがこの家を訪れた。この人も、アブラハムの子なのだから。」イエスさまは、私たちが木から降りてイエスさまと共に歩むことを望んでおられます。

(要約者:秋山 恭子)

(2019年7月14日)